



- ◆ 1 ページ
 - ・ 研修紹介
(教務主任研修・情報教育担当者研修)
 - ・ 学校紹介(白島小学校)
- ◆ 2 ページ
 - ・ 授業づくりシリーズ
学ぶ意欲が高まる授業を目指して(小学校英語科編)
 - ・ 情報FLASH「食育の推進」
(落合小学校)

7 月号 ミニレター

「教務主任研修・情報教育担当者研修」

研修紹介 各教科等の中で、情報活用能力の育成を

6月1日に行った「教務主任研修」「情報教育担当者研修」では、東京学芸大学 高橋 純先生を講師にお迎えして、「ICT活用を踏まえた情報活用能力の育成」をテーマに、情報活用能力の観点の一つである「**情報活用の実践力**」に焦点を当てて講演をしていただきました。

高橋先生からは、これからの社会では情報活用の実践力である**情報を上手に使う力**や**情報手段を上手に使う力**が求められる中、現在、広島市が取り組んでいる「**言語・数理運用科**」には、それらの力を付けるための要素が盛り込まれているため、今後もこうした取組を更に推進していく必要があること、また、「**言語・数理運用科**」で育んだ力を各教科等でしっかりと活用していくことが大切であると教えていただきました。

情報活用能力	情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質
情報活用能力の3観点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報活用の実践力 ○ 情報の科学的な理解 ○ 情報社会に参画する態度
情報活用の実践力で求められる力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を上手に使う力 ○ 情報手段（ICT等）を上手に使う力

「言語・数理運用科」のねらいをしっかりと理解して実施することで情報活用の実践力が育成される。

「言語・数理運用科」で育んだ力を各教科等の中で活用することで、より一層、情報活用の実践力が育成させる。

学校紹介 紙芝居・絵本作成で平和への思いの継承 白島小学校

被爆70年が過ぎ、被爆の実相や地域の復興等を伝える方々も少なくなってきました。その中で、被爆体験を聴く時間を設定することは、平和への思いを継承する上で、大きな意味があります。

白島小学校では、毎年、被爆体験者から被爆体験に関わるお話を聴いたり、「**折り鶴を折る会**」を行ったりして、児童の平和意識の高揚に努めてきました。今年度は、更に、上記の2つの会の関連を図り、6年生が総合的な学習の時間を活用して、「**紙芝居・絵本の作成・発表**」を行いました。被爆体験者から聴いた平和への思いをもとに、紙芝居や絵本を作成し、自分の言葉で伝えることで、**平和への思いの継承**へつながる取組となりました。また他学年は、身近な6年生が伝えるお話に興味を示し、**より平和について考える**ことができました。

6年総合

被爆体験に関わるお話を聴く



・佐々木禎子さんの同級生の川野登美子さんから、「被爆体験を乗り越えて」をテーマに、禎子さんとの生活や折り鶴に込められた思い、原爆の子の像の建立についてのお話を聴きました。

①紙芝居・絵本の作成






伝えたい場面を選ぶ その場面を文章にする 場面を絵に描き完成

被爆体験に関わるお話を聴く会と「折り鶴を折る会」の間に、6年生が①紙芝居・絵本の作成、②紙芝居・絵本の発表を実施

②紙芝居・絵本の発表



・たてわり班のみんなに伝えることで、川野さんの伝えかった平和への思いが、改めて分かった気がしました。

・6年生が分かりやすく教えてくれたので、折り鶴に込められた意味がよく分かりました。もっと原爆のことを知りたいと思いました。

たてわり班でグループ毎に発表 6年生の感想 他学年の感想

全校たてわり班活動

折り鶴を折る会



・これらの活動を通して、例年以上に「折り鶴」や「千羽鶴」に込められた意味について考えることができました。

・上級生が優しく教える姿が見られる等、身近な平和を感じる時間となりました。

～子どもの心に
火をつける～



学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、学習過程の「導入場面」「課題認識場面」「課題解決場面」「振り返り場面」の中で、例えば「試行錯誤する活動」や「対話する活動」など、子どもが主体的になれる活動を仕組むことが重要です。今回は、課題解決場面において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための工夫を行っている実践を紹介し、そのよさを考察します。

小学校英語科編

課題解決場面の工夫 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

小学校英語科の目標は、「英語による活動を通して、言語や文化に対する興味・関心を高め、英語を聞いたり話したりする力の基礎を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」ことです。

＜八幡東小学校 工藤 辰晃 教諭
高橋美和英語指導アシスタントの実践＞
※実践は平成27年度のものです。

コミュニケーション活動：「クラス全員パーティーの計画／おもてなしリストを作ろう」

- ① 各自がクラス全員パーティーの主催者となることを伝える。
- ② 各自、パーティーで食べたいメニュー、食べたくないメニューを考える。
- ③ スタートの合図で、お互いが食べたいメニュー、食べたくないメニューを聞き合う。
- ④ どんなメニューを食べたい人が多いのかなど、クラス全体の集約結果を共有する。

何がほしいんだろう？



本実践のよみ

- 身近で具体的な場面設定
子どもたちにとって身近で具体的な場面を設定することで、子どもたちがより臨場感を持って活動することにつながりました。
- コミュニケーションの必然性
「友達に伝えたい」「友達のことが知りたい」等、内容のある活動となっているので、興味・関心をもって取り組むことにつながりました。

あ、〇〇さんは～が好きなんだ！



教育委員会発！ 情報FLASH

健康教育課から

家庭と連携して、主体的に食育推進

落合小学校

落合小学校では、食育を通して心と体を育てる取組を行っています。キーワードは

- ①「学校と家庭が連携する」
- ②「主体的にお弁当づくりに関わる」

具体的には、学校で身に付けた食に関する知識をもとに、実践として運動会の予備日にお弁当づくりに関わるというものです。無理なく取り組めるよう「5つのコース」から自分に合ったものを選び、参加します。そのことにより、子どもたちは達成感を得るとともに、自立心や個性を尊重する態度などの育成にもつながっています。

また、家庭と連携することで、家庭への啓発になるとともに、知識の定着の場にもつながっています。

食育推進を通して、子どもの成長につながるよう取り組んでいます。

選べる「5つのコース」

- 自分の弁当箱や水筒などを用意する
- 自分でおにぎりを作る
- 弁当箱におにぎりとおかずをつめる
- おかずを一品以上自分でつくる
- 全部自分で作ってみる

子どもの成長

- ・ やった！一人でもできた！（達成感）
- ・ これからも自分でやってみよう！（自立心）
- ・ 〇〇くんのお弁当も工夫されてるね（個性の尊重）
- ・ 買い物もお弁当づくりも大変なんだ（感謝）

